



けやき

第10号

【校訓】
主 性
自 根
協 同

R5、3、3発行
文責 光山

芦北町立佐敷中学校 学校便り

二月二十四日(金)に、授業参観をかねて二年生の立志式を行いました。第一部は本校卒業生で早稲田大学四年生の井川龍人さんの講話があり、第二部は各学級に分かれて、色紙に書いた「志」の発表を行いました。

第2学年「立志式」志を新たに！

井川龍人さんの講話は、生徒が質問をし、それに井川さんが答えるインタビュ形式で進んでいきました。現役の陸上選手として箱根駅伝などで活躍をしている佐敷中の先輩の話は一つ一つが具体的に、生徒たちの心に刺さるものでした。せっかくの機会でするので、そこで学んだことをいくつか紹介します。

○目標設定はレベルを変えて！
まず、大きな目標を高めに設定する。そして、次に小さな目標、例えば、一ヶ月や一週間の目標を設定することで、大きな目標を見失うことなく努力することができる。

○一番の天才は、努力できる人！
努力は報われるかと尋ねられると正直難しいところもある。実際、努力して報われずに終わった人もいる。しかし、努力することで得られることがたくさんあり、それまでの経験(努力)は次に生きる人としても成長できると思う。

○年齢は関係ない。恐れずにチャレンジを！
陸上に限らずサッカー等でも中高校生の年齢で世界的に活躍している人がいる。「まだ若いから」等、年齢を考えるよりも、まずチャレンジすることが大切。失敗も経験として次に生きると思うから。

○周りのことを思って！
結果が出ないと、悪循環に陥って、やめたいと思ったこともあるが、応援に込めるまでやめられないという思いで、踏ん張っている。

井川さんの話から、目標を明確にし、自分を客観的に振り返って分析し、結果をポジティブに考えて努力を重ねておられる姿が伝わってきました。大切にして、「可能性は無量大」の言葉からもその思いが伝わってきました。話の中に親に感謝、友達を大切に、監督のおかげ等、周囲に支えられている、感謝しているという言葉が繰り返し出てきました。自分一人の力ではなく、周りの支えのおかげであるという思いがひしひしと伝わってきました。立志式を迎えた二年生にとってかけがえのない貴重な時間でした。

これからも井川選手をみんなが応援していきましょう。そして、次は、オリンピック選手として芦北町に凱旋されることを楽しみにしましょう。

卒業生と「夢を語る会」！

二月下旬から三月上旬にかけて、卒業生と校長室を使って「夢を語る会」を行いました。方法は、三、四人のグループ二十分程度、六つのお題について語り合うというものです。お題は、「将来の夢」「三十歳の自分」「佐中プライド」「佐中での学び」「私が好きなこと」「気になっていること」の六つでした。さいころトークのようにして、出た番号のお題について語り合いました。普段の学校生活では見せない姿を見たり、年代差に戸惑いを感じたりしながらも、どのグループの話も楽しく、時間がたつのを忘れるほど充実したものでした。

生徒と校長が、時間をとって直接話す機会はそう多くありませんので、大変貴重な時間でもありました。今時の十五歳を少しは理解できたのでは？と思っています。

様々な話題がありました。共通して感じたのは、佐敷中学校の三年間で、生徒一人一人が、とても成長してきたということです。一年生の時の自分を今の自分と比較して説明する姿や、佐中プライドについて語る姿は、楽しいことだけではなかつたけど、たくさんの経験を学んで、変容してきたという自負がにじみ出るものでした。

自分なりの言葉で自分のことを語ってくれる生徒に、言葉には表せない感動がありました。

四月からのそれぞれのステージでの活躍を期待します。

佐敷中校区コミュニティ・スクール

2月28日に第3回学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を大野小学校で開催しました。今回は、大野小、佐敷小、佐敷中の学校評価を行うことと、令和5年度の佐敷中校区コミュニティ・スクールのテーマを承認していただくことが協議の中心でした。

まず、大野小学校の授業参観を行い、その後、3つの学校に分かれていただいた学校運営協議会委員の方々に各学校の学校評価を行っていただきました。学校評価書は、保護者・生徒・教職員アンケート結果等を基に今年度の成果と課題、次年度の取組についてまとめました。その説明を行った後、4人の委員の方から質問や助言、意見などをいただきました。今後は、いただいた学校評価を受けて、来年度の学校経営の方針を定めていきます。

また、令和5年度の佐敷中校区コミュニティ・スクールのテーマは、「**ふるさとを愛し、自ら未来を描き、その実現に向けて 考動できる子供の育成**」になりました。地域とともにある学校を強く意識したいという思いを込めて提案しました。無事に、今回の学校運営協議会で承認していただくことができました。来年度は、ふるさとを愛する生徒の育成に一層努めます。

【あどがき】
三年生が書いた三年間の学びという作文(自分の思い)を読ませてもらいました。ある生徒が次のように書いていました。
「私が三年間で学んだことは、挨拶、礼儀などの大切さと何事にもチャレンジする心です。挨拶と礼儀などは、私にとって佐中プライドだと思っています。(中略)私は入試の際にこの学校よりも佐中が一番挨拶をしていると感じました。またプリントなどをもらった時に会釈をしているのは、佐中生だけでした。このように挨拶は続けていくと礼儀にも繋がります。佐中生にとって挨拶や礼儀は誇りだと思っています。なので、これからも続けていこうと思います。(中略)高校生になっても挨拶や礼儀を欠かさずチャレンジする心を忘れずに一歩一歩前進していこうと思います。」
いかがでしょうか。こんな生徒が育ってくれたことに、職員一同、心から喜び合いました。(光)